

竹下復興大臣ぶら下がり記者会見録

(平成27年7月13日(月) 12:09～12:12 於) 福島県会津若松市)

1. 発言要旨

昨日、今日、2日間に亘って会津地方を訪問いたしました。そして、バイオマスの発電所、会津大学、そして会津大学の卒業生たちがやっておるFab蔵というラボを昨日は視察をさせていただき、今日はこの協議会の発足に合わせて参加をさせていただき、講演をさせていただきました。「会津は動いているな」と、「これは動いているな」と、これからも引っ張ってほしいなということを変更して強く感じた次第でございます。

私からは、以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 改めて、今後復興庁としては福島復興を進めていくお考えだと思うんですが、福島の復興と地方創生をどう今後リンクさせていくお考えでしょうか。

(答) かねてからお話ししておりますように、復興は復興として我々は必ずやり遂げます。必ずやり遂げますが、地域を元気にする、地域を活性化するというのは、むしろ地方創生のほうの知恵をどんどん取り入れて、あるいは予算を取り入れて、それぞれのまちが「我がまちはどうすれば元気になるか」と、「どうすればさらに活力が出てくるか」と。プラスワンのもう一つ上を目指すときには地方創生が必要だという思いでありますので、復興の土台の上にプラスワンの価値を乗っけていただきたい。それが地方創生だと、こう思っております。

(問) いま一つ、復興事業とその上に地方創生、その境目ってはっきりしていないのかもしれませんが。

(答) ないない、はっきりしていない。入り乱れているし、どこからどこまでというきっちり切れるものではないというふうに。

(問) わかりました。あとそれと最後におっしゃってました「リスクをとって走り続けるところに対して我々は必ず支援をする」ということをおっしゃってましたけれども、その真意をちょっともう一度お聞かせいただきたい。

(答) 安全な政策、安全な方法だけで物事が進化をしていく、あるいは動いていくわけではなくて、私は時にリスクをとってやることの仕事のほうがうまくいくと言ったら変ですが、例えば今全国の地方創生のいわばモデルになっているような幾つかの地域ありますよね。そこは、もうぎりぎりまで追い詰められてリスクとったんです。もう俺らは失うもんないと、腹を決めてリスクをとった

ところが今全国の市町村、小さな村でも輝いているというところは、そういうリスクとったところなんです。リスクは、けどリスクですから、全て成功するとは限らないんです。けど、リスクをとろうという意欲のあるところを我々はしっかり支援していこうと。特に地方創生はそうだというふうに私は思います。

(以 上)